

実践⑫ ストーリーテリングの会「おはなしの森」(鹿児島市)

ストーリーテリングを学びたいという有志が集まり、2005年に学習会がスタートしました。同時に、基礎となる児童文学とわらべうたの学習も始めました。毎月の定例会とわらべうた講座、年2回の講師をお招きしての特別例会を続けています。

また、他県のグループとの交流学習会や語り手を招いてのおはなし会を開催し、会員の資質の向上を図っています。そのほかにも、子どもゆめ基金助成による講座や講演会を開催し、学びの場を広げています。これらの取組で会員が学んだことを、同じ思いを持つそれぞれの地域の仲間たちに伝えることで活動の輪を広げています。

「おはなしの森」は、代表と会計、監査各1名、運営委員6名（各地域から2年交代制）から構成されますが、「全員が代表」がモットーの会ですので、全員で役割分担をしています。特に、特別例会の企画・運営には会員全員が関わっています。

定例会は全員参加が原則ですが、仕事を持っている人もいるため、短い時間で充実した内容になるよう心がけています。昼食時間は、みんなが揃って、各自が持参したお弁当を食べるとても賑やかな時間です。そのほかにも、年1回の親睦会、他県の同じ活動のグループとのおはなし交流・学習の旅などを行っています。

私たちは公共図書館や園・学校からの要請に応じて、おはなし会や読書指導の講師として会員を派遣することがあります。これまで経験してきたことや定例会等で学んできたこと、一流の講師から学んだこと、全国のストーリーテリングのグループとの交流から得たもの、それら全てを「おはなしの森」のフィルターを通し、私たちのことばで伝えています。



また、子どもや大人におはなしを届ける機会にも恵まれます。子どもたちや大人の方々に耳からの読書（ストーリーテリング）でたくさんの物語を聴いてもらうことが、読書の楽しさにつながってほしいと願っています。

地方の都市でのささやかな読書活動ですが、地道に例会で学習会を続けながら、一流の講師を招いて質の高い学習会を行ったり、東京子ども図書館からおはなしの講座の講師を派遣していただいたりしています。毎年、伊東明美さんのおはなしの講座も続けています。そのほか、全国の同じ活動をしている方々との読書に関する情報交換や交流学習会で刺激をいただくことで、会に活気をいただいています。

目に見えない、すぐに効果があらわれるものではありませんが、耳から聴いた物語の世界が子どもたちの心に残り、生きる力を養い、大人の読書に繋がっていくことを願っています。